

団体に関する基礎調査 調査結果の概要

1. 調査の概要

(1) 調査目的・期間

町会・自治会に代表される市内で活動する団体や、町会・自治会の推薦を受けて地域で活動するスポーツ推進委員においては、実際に活動する上で役員等のなり手不足等、種々の問題が見受けられる。これらの問題について、対象となる団体や市民にアンケート調査を実施し、その結果を分析することで、団体の活性化に向けた阻害要因、課題等を見だし、今後の対策の検討に資することを目的に、平成29年12月20日（水）から平成30年1月29日（月）まで、団体に関する基礎調査を実施した。

(2) 調査手法・回収状況

市内の町会・自治会、スポーツ推進委員に関する4種類のアンケート調査を行った。

- ①町会・自治会長対象調査 : 市内全876町会・自治会への郵送調査
有効票数 652票 (74.4%)
- ②町会・自治会加入世帯対象調査 : 町会・自治会長から加入者に配布 (6,470票)
有効票数 3,500票 (54.1%)
- ③スポーツ推進委員対象調査 : 市内全199名のスポーツ推進委員への郵送調査
有効票数 150票 (75.4%)
- ④町会・自治会非加入世帯対象調査 : 市内在住のインターネットモニターから町会・自治会非加入者を抽出 有効回答数 638件

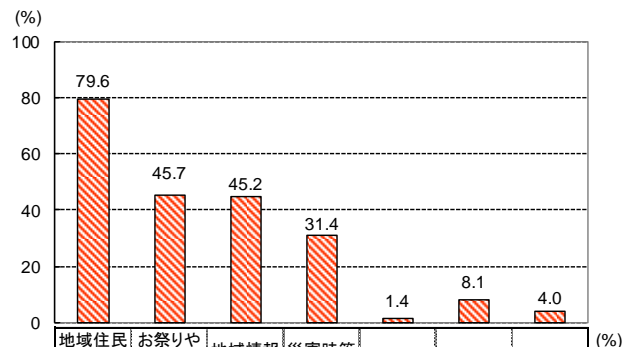
2. 調査結果

- ✓ グラフ、表のクロス集計においては、クロス項目の「無回答」は掲載していない（合計はTOTALと一致しない）。
- ✓ 表中の数値の色分けは、右の表の通り対応している。

ポイント差 (TOTAL比)	色分け
10ポイント以上高い	(白抜き文字)
10ポイント以上低い	(黒文字)

(1) 町会・自治会に関する調査の結果

- ✓ 町会・自治会で活動して良かったこととして、「地域住民との交流や知り合いが増えた」を約8割が挙げている。
- ✓ 規模が大きい町会・自治会ほど、加入・活動することでのメリットを感じている。



【加入世帯調査】

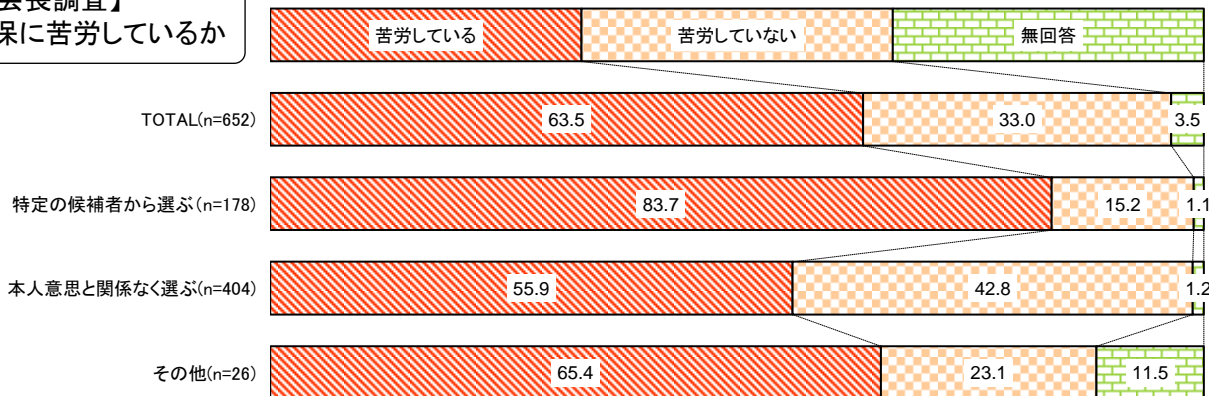
町会・自治会で活動して良かったこと

「お祭りや催しに参加する機会ができた」等は、規模が大きい町会・自治会でメリットとして挙げられている

	TOTAL	3,500	79.6	45.7	45.2	31.4	1.4	8.1	4.0
規模 (加入世帯数)	30世帯以下	197	60.4	10.7	32.0	18.3	4.1	20.3	6.6
	31-50世帯	255	72.5	25.9	34.5	29.4	1.2	11.8	4.3
	51-100世帯	638	71.8	28.7	37.0	24.5	1.1	12.7	5.5
	101-800世帯	1,861	83.3	51.5	47.7	32.3	1.2	6.2	3.3
	801世帯以上	533	87.1	68.9	57.0	42.8	1.1	3.2	3.8
性別	男性	1,149	81.4	51.4	47.5	35.2	1.6	7.3	2.4
	女性	1,159	77.7	38.7	40.9	27.1	1.2	9.1	4.7
年代	30歳未満	11	81.8	27.3	45.5	18.2	0.0	18.2	0.0
	30歳代	206	75.7	44.7	40.8	15.0	2.4	13.1	0.5
	40歳代	448	78.3	35.5	35.7	23.2	1.1	10.0	2.0
	50歳代	467	81.8	40.7	44.1	30.0	0.9	6.9	3.0
	60歳代	915	82.3	46.7	48.3	31.9	1.1	7.3	3.2
	70歳代	1,186	78.6	51.5	48.0	37.3	1.4	7.6	5.6
80歳以上	237	77.6	45.1	44.3	34.6	3.0	7.6	7.6	

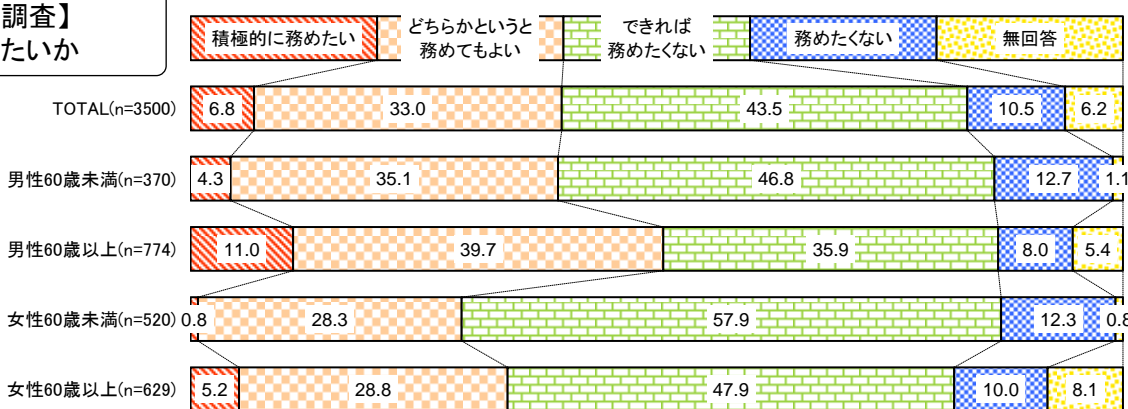
- ✓ 6割以上の町会・自治会で「役員確保に苦労している」と回答されている。
- ✓ 会長や役員の選び方は、「特定の候補者から選ぶ方法」（立候補制・選挙、指名制、互選・推薦等）、「本人の意思と関係なく選ぶ方法」（持ち回り制、抽選・くじ引き等）があり、前者を採用している町会・自治会より役員確保に苦労していると回答されている。

【会長調査】
役員の確保に苦労しているか



立候補制・選挙、推薦等で決めている町会・自治会ほど、「苦勞している」

【加入世帯調査】
役員を務めたいか

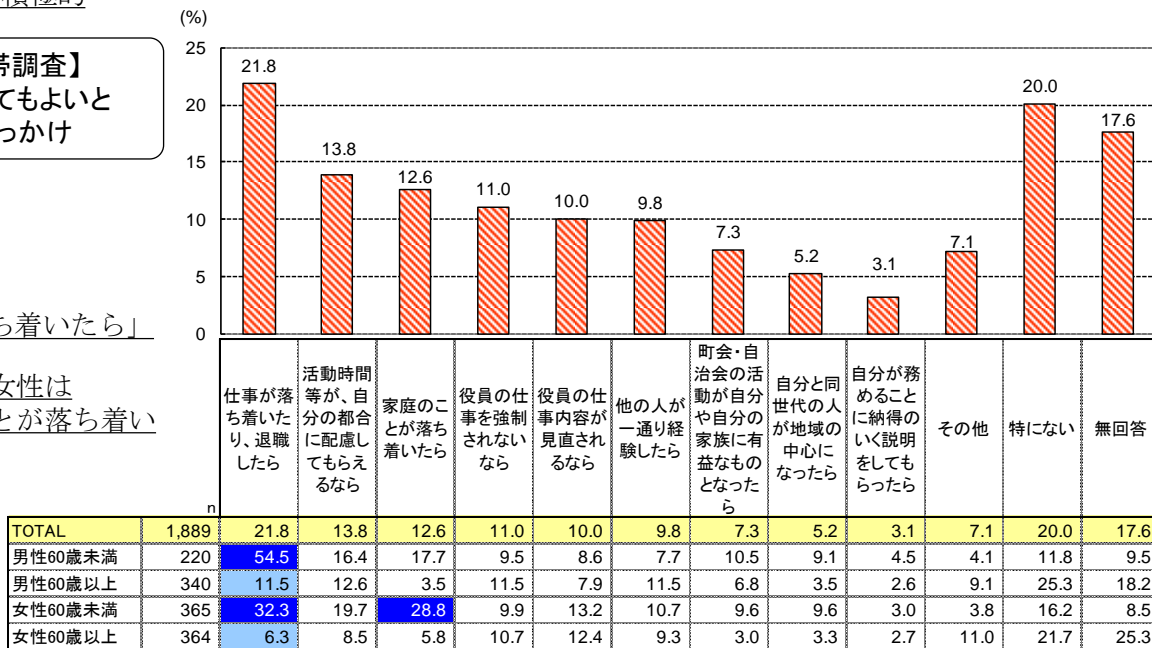


男性は女性よりも務めることに積極的

【加入世帯調査】
役員を務めてもよいと考えるきっかけ

若い世代は「仕事が落ち着いたら」

若い世代の女性は「家庭のことが落ち着いたら」

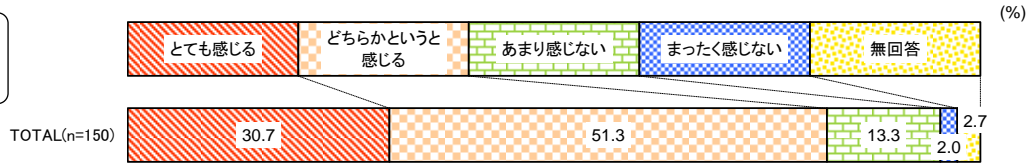


(2) スポーツ推進委員に関する調査の結果

✓ 「やりがいもあるが、負担も感じる」現状が明らかになっている。また、やりがいとして、活動そのものよりも「人とのつながりに関すること」が多く挙げられている。

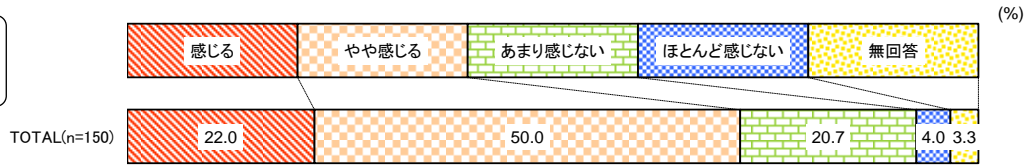
【スポーツ推進委員調査】 やりがいをを感じるか

計82%が「やりがいをを感じる」



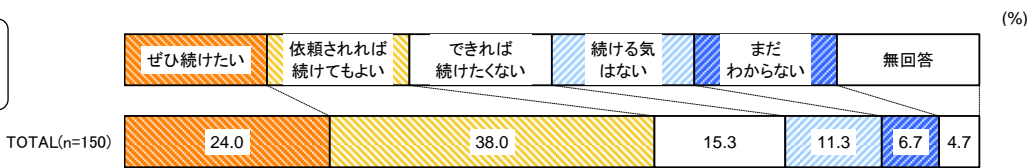
【スポーツ推進委員調査】 負担を感じるか

計72%が「負担を感じる」



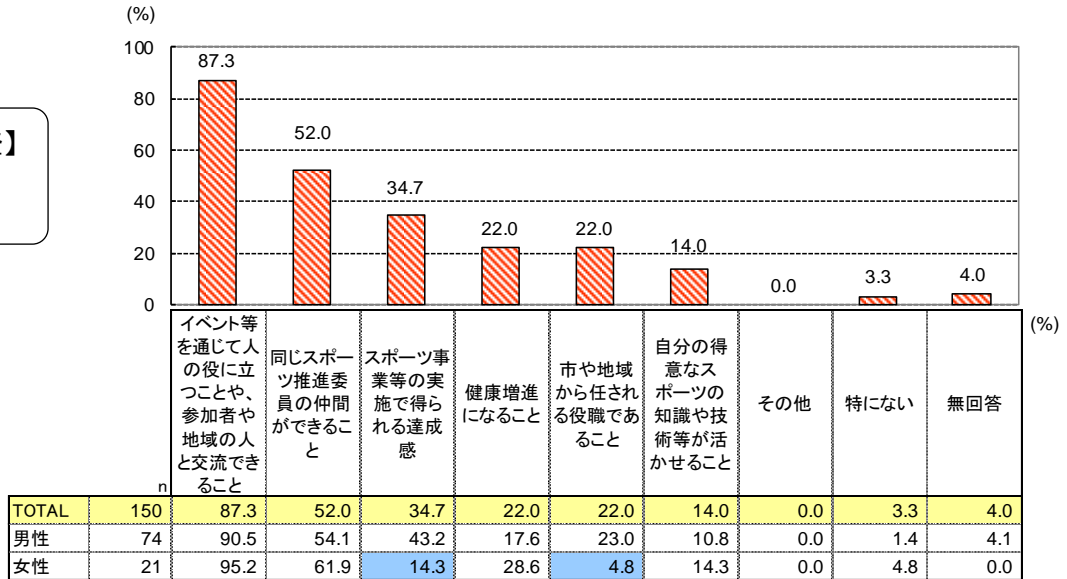
【スポーツ推進委員調査】 任期満了後も続けたいか

計62%が「続けたい」



【スポーツ推進委員調査】 委員を務めていて やりがいを感ずること

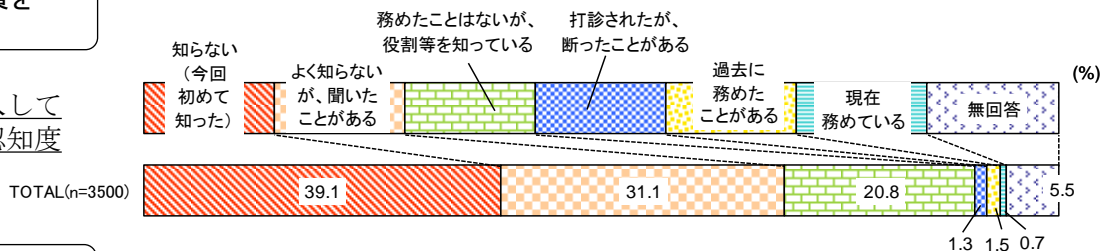
やりがいの多くは、「人とのつながりに関すること」



✓ 町会・自治会に加入していない人は、約8割が「知らない」（今回初めて聞いた）と回答しており、認知度の低さが浮き彫りになっている。

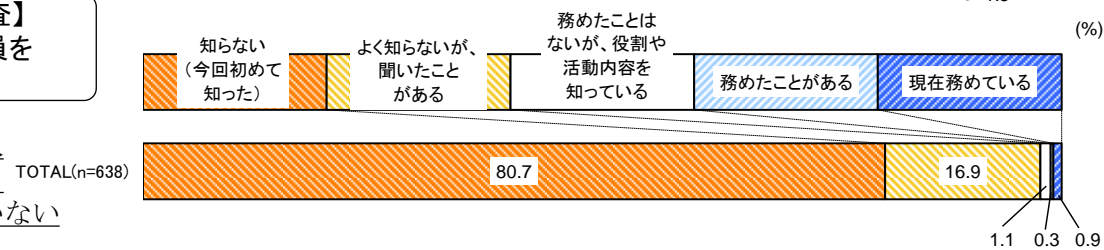
【加入世帯調査】 スポーツ推進委員を 知っているか

町会・自治会に加入している人には一定の認知度がある



【非加入世帯調査】 スポーツ推進委員を 知っているか

町会・自治会に加入していない人には、ほとんど知られていない



3. 調査結果から考えられること

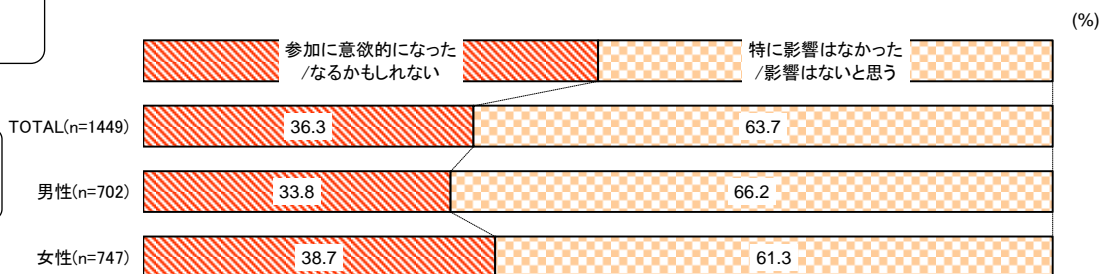
～町会・自治会、スポーツ推進委員の更なる活性化に向けて～

(1) 町会・自治会について

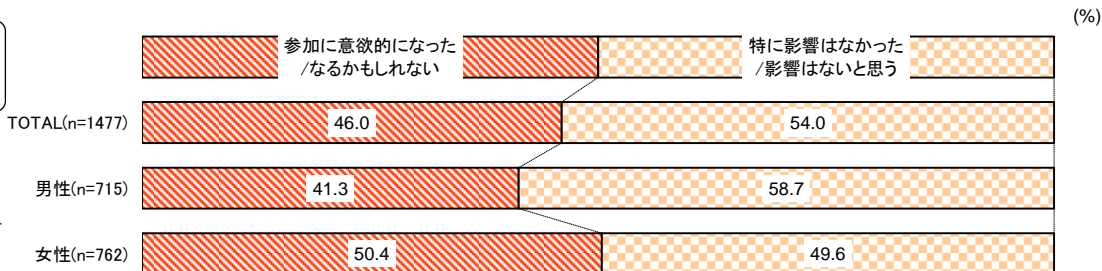
- ✓ 一部の人の負担が大きいとの指摘があり、より多くの人が参加することでの負担軽減が必要。
- ✓ 女性の関わりを高めるためには、女性の意見や視点をとり入れることも必要であると考えられる。

【加入世帯調査】
参加に意欲的に
なるきっかけ

子どもが
生まれたら



子どもが小学生
になったら



女性は子どもに関する
項目で関心が高い

(2) スポーツ推進委員について

- ✓ 現職の委員の多くはやりがいを感じているものの、今後、更に担い手を増やしていくには、活動内容や役割を見直していくことも必要であると考えられる。
- ✓ 現状は、「地域や自治会関係の役職」としての側面が強いが、若年層の興味や関心も意識し、「スポーツ関係の役職」としての側面を強めていくことも必要であると考えられる。

【スポーツ推進委員調査】
増えると良い活動機会

若い委員は学校やスポーツ
チームとの連携等に関心が
高い

